

科学と社会、地域と世界を結ぶ

○以下申込み欄もしくはメールに必要事項を記載してお申込ください。申込み締切は、9月30日（金）です。申込者多数の場合には抽選となりますが、結果の如何に関わらずお申込いただいた方全員へご連絡いたします。
※ご登録いただいた個人情報は、当財団のみが取り扱い、本講演会の事務や当財団のイベントのご案内以外の目的には使用いたしません。

インタビュー集『知をめぐる対話』第1弾 ～好評販売中～

湘南国際村学術研究センターでは、これまでさまざまな分野の方々に講師として来ていただきました。そうした方々を中心としたインタビューをまとめた冊子『知をめぐる対話』（2009年12月発行）を販売しております（※『知をめぐる対話vol.2』は、当日ご参加いただく方には差し上げます）。

ご希望の方は申込書の所定の欄にチェックし、「事前送付／当日受取」のいずれかに○をご記入ください。「事前送付」をご希望される場合には、こちらから「インタビュー集」と「お振込み銀行口座」をお送りします（送料無料）。「当日受取」の際には、講演会当日に参加費とともに代金をお支払いください。

『知をめぐる対話』目次 ※所属・役職名はインタビュー当時のものです

□私たちの世界

「国際政治も人と人のつながりで」 榊山 紘一（東京大学名誉教授／印刷博物館館長）
「国際政治学と映画と私」 藤原 帰一（東京大学大学院法学政治学研究所教授）
「東アジア共同体構想の再考」 田中 均（元外務審議官）

□豊かに生きる

「今度の冬は薪も多めに準備しておかないと」 竹内 恒夫（IGES上席研究アドバイザー／名古屋大学大学院専任教授）
「ゆっくりと変わる私たち」 池内 了（総合研究大学院大学葉山高等研究センター長）
「『名著』と『器』 ～知的で豊かな人生とは」 江藤 裕之（長野県看護大学外国語講座准教授）

□女性と自立

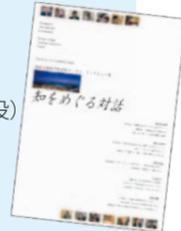
「ギア・チェンジで乗り切れ！一育児と仕事の両立」 坂東 真理子（昭和女子大学学長）
「無理なく、違和もなく」 山崎 美貴子（神奈川県立保健福祉大学学長）

□アート之力

「ある美術館をめぐる物語」 建島 哲（国立国際美術館長）
「市民生活とつながるアートを」 北川フラム（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役）
「かわるもの・かわらないもの」 山梨 俊夫（神奈川県立近代美術館長）

□未来を描く

「人類の世界観を新しくしたい」 小平 桂一（総合研究大学院大学学長）
「かながわの国際化を見つめて」 鈴木 佑司（法政大学教授）
「時代の転換点に向き合うこと、未来を描くこと」 神野 直彦（東京大学大学院経済学研究科教授）



<input type="checkbox"/> ファックス 046 - 858 - 1210 <input type="checkbox"/> メール shimizu@kif.ac ※9月30日(金) 締切	
フリガナ氏名	
所属	部署
住所	〒
電話	ファックス
メール	
<input type="checkbox"/> インタビュー集『知をめぐる対話』（500円）希望 <input type="checkbox"/> にチェックをご記入ください ※『知をめぐる対話 vol.2』は、当日ご参加いただく方には差し上げます。 いずれかに○をつけてください→ <input type="checkbox"/> 事前送付 または <input type="checkbox"/> 当日受取 を希望。	

湘南国際村センター（葉山町上山口1560-39）交通案内

①逗子駅・新逗子駅発 湘南国際村行きのバス

JR逗子駅前1番乗り場より「湘南国際村」行きバスに乘車、「湘南国際村センター前」下車。約30分、340円。JR逗子駅発車後2～3分で、京急新逗子駅前1番バス乗り場に停車。

②京急汐入駅発 湘南国際村行きのバス

京急汐入駅前2番乗り場より「湘南国際村」行きバスに乘車、「湘南国際村センター前」下車。約30分、370円。

【タクシーをご利用の場合】 JR逗子駅前タクシー乗り場より湘南国際村センターまで約15分、約2,800円。

【高速バスをご利用の場合】 横浜駅東口〈Y-CAT〉より湘南国際村センターまで約40分、900円。

【交通案内HP】 <http://www.shonan-village.co.jp/access.html>

【問合せ】（財）かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター（担当：清水、佐々木）
電話 046(855)1821 メール shimizu@kif.ac

科学技術と環境政策の視点から

2011/10/8(土) 14:30～(受付開始14:00～)

湘南国際村センター（葉山町）1階・ルミエール
1,500円（茶菓とインタビュー集『知をめぐる対話vol.2』つき）
40名（定員を超えた場合、抽選）申込締切9月30日（金）

講師：平田光司（総合研究大学院大学 学長補佐）
小林正典（地球環境戦略研究機関シニア・アソシエイト
横浜国立大学大学院環境情報研究院 特任准教授）
司会：金 龍哲（神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部長・教授）



お申込み・お問合せ
（財）かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター
（担当：清水）shimizu@kif.ac
TEL:046-855-1821 FAX:046-858-1210

主催：財団法人かながわ国際交流財団
協力：総合研究大学院大学、財団法人地球環境戦略研究機関、
神奈川県立保健福祉大学
後援：葉山町

「カフェ・インテグラル」とは？

知的機関の集積地である湘南国際村の多様な分野の研究者を講師に招き、人間や社会の営みについてその現状と将来像を見通す多角的・統合的な視点を養うための講演会を開催します。
その研究者が歩んできた軌跡を、出会った恩師や本の言葉を紹介しながら辿りつつ、当時の社会問題に対する意識や時代背景とのつながりを紹介します。そして、現在の研究内容に至るまでの転換点を取り上げて、分野を越えたつながりとそれを見通すための視点を持つことの大切さについてわかりやすくお話しします。

科学と社会、地域と世界を結ぶ

～科学技術と環境政策の視点から越境する知を紡ぎ出す

大規模な地震と津波、そして原発事故を引き起こした東日本大震災によって、自然環境の脅威、科学技術のあり方などが、改めて深く考えるべき課題として、私たちに突き付けられています。それは、直接、私たちの生活に関係ないと思われるものでも、実は日常の中に横たわっている身近な問題であることを意味し、私たちは、多様な問題を“つなぎ、結び合わせて”考えることの必要性を改めて感じることとなりました。

「カフェ・インテグラル」では、科学と社会の関係や社会における科学、そして科学者の社会的責任のあり方を追求している総合研究大学院大学の平田光司学長補佐と、地球環境戦略研究機関（IGES）で持続可能な開発に向けた取組みの国際的連携と地域社会とのかかわりのあり方を研究していた小林正典氏を講師としてお迎えします。そして、科学と社会を結ぶ平田氏、地域と世界を結ぶ小林氏に、個別の問題を越境して“結ぶ”ことの大切さ、さらにはそこで直面する障害などを話していただきます。またプログラムの後半では、お二人の講師に影響を与えた恩師や本の言葉を題材として、お茶とお菓子を楽しみながらカフェ・スタイルで参加者との対話を深めていきます。司会は、神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部長・教授の金龍哲氏（教育学博士）。

科学と社会の関係や社会における科学の姿を追い求める平田氏と、持続可能な開発に向けて国際的連携と地域社会のあり方を模索する小林氏が、“つなぎ、結び合わせる”知を語る—

◆開会 14：30～（受付開始 14：00～）※【バス】逗子駅発13：47、京急汐入駅発13：48

◆セッション1 14：40～15：30 レクチャー30分+質疑応答20分
「なぜ“科学と社会を結ぶ”のか～私の研究履歴とそれを支える思想～」 平田光司
【休憩】15：30～15：40

◆セッション2 15：40～16：30 レクチャー30分+質疑応答20分
「なぜ“地域と世界を結ぶ”のか～私の研究履歴とそれを支える思想～」 小林正典

◆ダイアログ 16：30～17：00
「越境する知を紡ぎ出す思想を探る」 司会： 金 龍 哲

◆閉会 17：00 ※【バス】逗子駅行き17：40、京急汐入駅行き17：45



□参加者特典1

おいしいお茶とお菓子を楽しみながら、
リラックスして学ぶ知的カフェ

(写真はイメージです)

□参加者特典2

多分野にわたる研究者の方々のインタビュー集『知をめぐる対話 vol. 2』（2011年2月発行）を差し上げます。

※所属・役職名はインタビュー当時のものです

目次

【絵の力、言葉の力】 佐伯 胖（青山学院大学教授）／高島肇久（㈱日本国際放送代表取締役社長）／武部恭枝（コミュニケーション戦略コンサルタント／国際会議同時通訳者）

【社会を見つめ直し、理念を描く】 野村雅一（総合研究大学院大学理事・副学長、国立民族学博物館名誉教授）／色平哲郎（JA長野厚生連・佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長）／諸富 徹（京都大学大学院経済学研究科教授）／大芝 亮（一橋大学大学院法学研究科教授）

【ひと、そして市民社会を育む】 滝田賢治（中央大学法学部教授）／田中弥生（独立行政法人大学評価・学位授与機構准教授）／川崎あや（特定非営利活動法人アクションポート横浜 理事）



■平田光司（ひらた・こうじ） ■ 総合研究大学院大学 学長補佐



慶応義塾大学工学部卒（計測工学）、朝永先生にあこがれて東京教育大学の大学院に入学。在学中に筑波大学に組織変更しそこを修了（素粒子論、理学博士）。就職が無く困っていたところ加速器を勧められ高エネルギー物理学研究所で助手になり、加速器の理論研究を行う。加速器など「単なる技術」と思っていたら大間違いで、理論物理学のテーマがいくらでもあり、研究者も少ないので無人の荒野に行く楽しさを味わう。「単なる技術」など無いこともよくわかった。その後、いくつかの活動を経て、総合研究大学院大学に移り大学院生への総合教育に関わるとともに、科学技術社会論学会の立ち上げに関わる。所属専攻では生命系の学生に対する「科学と社会」の副論文（必修）の指導を主にしている。

現在の研究は、巨大科学の社会史、大学共同利用機関の歴史、科学におけるコミュニケーション、加速器ビームの非線形現象。支離滅裂のように見えるかもしれないが、私の中では一つのことである。加速器におけるビームのふるまいは非線形であるために、あらゆる部分に関わり合う。このため「専門馬鹿」の寄せ集めでは良いものはできない。ここに巨大科学、大型装置科学の特徴がある。そのための研究者集団は共同利用機関に依拠することで成立したが、そこでは様々な研究者集団、外部集団が協力と対立を繰り返す。そこをコミュニケーションの観点からとらえてみると、科学論争と見えるものが実際は権力闘争だったりする。その辺を研究するのも科学技術社会論の課題である。

■小林正典（こばやし・まさのり） ■ 地球環境戦略研究機関シニア・アソシエイト／横浜国立大学大学院環境情報研究院 特任准教授

千葉大学法経学部（法学士）、国際基督教大学大学院（教養修士）、ジョージア大学法律大学院（法学修士）、東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程生圏システム学緑地学専攻単位修得退学。国連日本政府代表部経済班専門調査員、国連本部持続可能な開発部持続可能な開発専門員（以上ニューヨーク）、国連砂漠化対処条約事務局アジア地域部プログラム担当官（ジュネーブ／ボン）を経て2004年8月よりIGESに勤務。2011年8月より横浜国立大学大学院環境情報研究院特任准教授に着任。以降はシニア・アソシエイトとしてIGESの研究活動に関わる。



IGESでは、アジア・太平洋環境開発フォーラム（APFED）を担当し、気候変動、資源管理・廃棄物処理（3R）、生物多様性・生態系保全、地域社会の自立化など、環境・持続可能性政策についての政策対話、優良事例表彰・研究、実証事業などをアジア・太平洋の有識者・関連機関と連携して実施。また、アジア環境法遵守執行ネットワーク（AECEN）、アジア・ヨーロッパ環境フォーラム（ENVforum）、国連環境計画（UNEP）市民社会フォーラムなど環境・持続可能性政策に関する国際的ネットワークとの連携を担当。2011年4月からは、東日本大震災の被災地復興に関する研究に関わり、6月には岩手・陸前高田市、宮城・岩沼市、福島・いわき市を視察し、現地の大学等と連携して研究活動を進めている。

環境・持続可能性問題を抽象的な政策論に留めておくのではなく、そこで関わる人や地域社会の生活を一体として捉え、人間社会の生活や自然環境との関わり方を環境保全や持続可能な社会づくりに寄与する方向にいかんして変えていくことができるのかを明らかにしていくことを重視している。

<司 会> ■金 龍 哲（じん・るんじょ） ■ 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部長・教授



現地でモソ人とイモ掘りをする金先生（中央）

中国の東北師範大学卒業。1982年、教育部大連外国語大学赴日予備校を経て、同年10月、政府派遣留学生として来日。1988年 広島大学大学院教育学研究科博士課程修了して帰国、教育部中央教育科学研究所（北京）副教授。1995年4月より広島大学教育学部助教授。2003年4月より神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授。2011年4月より現職。教育学博士。比較教育学専攻。

著書『結婚のない国を歩く—中国西南のモソ人の母系社会—』（大学教育出版、2011年）では、中国の少数民族で、“走婚（妻問い婚）”と“結婚”という婚姻形態が併存しているモソ人の母系社会を紹介、また最新刊『東方女人国の教育—モソ人の母系社会における伝統文化の行方』（同）では、モソ人の「命名式」「成人式」「葬送儀礼」などの通過儀礼からみたモソ人の「教育文化」、急速に進む近代化の中でモソ人の伝統文化の伝承問題等を明らかにしている。このようなモソ人の社会と文化に関する研究が、現代における家族のあり方、文化の伝承、異文化の共生、文明のあり方などについて考えるきっかけとなることを願う。